

令和4年度新潟県立図書館運営基本指針 行動計画評価シート

1 地域社会への貢献

- ・ 定量評価（5=100％以上　4=90～100％　3=80～90％　2=70～80％　1=70％未満）
- ・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県 の 行政 施策 と 連携 した 取組	県各部局とのコラボ展示	・ 県各部局へのPR ・ 展示の実施 ・ 「読書お便りコンクール」市町村巡回展示の実施	ギャラリー展示回数【6回】	コラボ展示について庁内に連携の呼びかけを行い、各部局から展示要望が寄せられた。 年度前半は県立高等学校や一般県民の利用が多かったが、県各部局との連携展示は後半に集中して実施した。 ＜実績＞ ①めざせ！食品ロス削減パネル展（県環境局資源循環推進課）9. 27～10. 18 ②読書おたよりコンクール受賞作品展示　10. 25～11. 27 ③「海洋プラスチック」削減に向けたパネル展（県環境局資源循環推進課）11. 8～22 ④新潟県環境保全ポスターコンクール受賞作品展（県環境局環境政策課）1. 17～30 ⑤「いのち・愛・人権」パネル展（新潟県人権・同和センター）1. 17～30 ⑥拉致問題を考える巡回パネル展（県知事政策局国際課）1. 30～2. 14 ⑦にいがたフォレストリーマガジン写真展（県農林水産部林政課）3. 14～28	7回	達成率117％ 評価（5） 100％以上	庁内に連携の呼びかけを行い、各部局から展示要望が寄せられた結果、当初目標を達成した。 次年度も引き続き、行政連携による県施策の情報発信に取り組んでいく。 昨年度から開始した「読書お便りコンクール」市町村巡回展示は県内4館で開催予定で、読書活動推進のPRにつながっている。	A	県の施策を県民にPRする場としてのコラボ展示等の図書館利用は効果的である。引続きの実施を望む。 「県の行政施策と連携した取組」では全ての項目で目標が達成されており、職員の努力がうかがえる。各部局とのコラボ展示、行政施策の広報は市としても参考にさせていただきたい。
	特設コーナーにおける県行政施策の広報	・ 施策広報コーナーの整備 ・ パブリックコメント・コーナーの充実 ・ 県各部局への周知 ・ 展示の実施	コーナー展示回数【24回】	県職員専用ポータルサイトを活用して庁内に呼びかけを行うとともに、来館者の関心が高そうな施策について当館から連携を打診し展示につなげた。 展示資料及び施策をより効果的にPRできるよう、展示コーナー内でブックリストや連携先から提供されたパンフレット、プレゼント付きのアンケート、啓発グッズ等の配布を実施した。また、ホールでのイベントやギャラリー展示と連動させた展示も実施した。 〈連携実績〉 食品・流通課、県立歴史博物館、生涯学習推進課、障害福祉課、県立近代美術館、観光企画課、県立歴史博物館、健康づくり支援課、県立万代島美術館、県民生活課、人権啓発室、広報広聴課	28回	達成率117％ 評価（5） 100％以上	県施策に関する図書のPR展示について様々な部局から申込みがあり、多彩なテーマで展示を実施することができた。 パンフレットや啓発グッズは来館者にも好評で、県施策のPRにつながった。 またアンケートも多くの方にご回答いただき、展示を実施した部局においては県民の意見を聴取する貴重な機会にもなったと思われる。	A	「県の行政施策と連携した取組」では全ての項目で目標が達成されており、職員の努力がうかがえる。各部局とのコラボ展示、行政施策の広報は市としても参考にさせていただきたい。（再掲）
	県各部局への情報提供の拡大	・ 県庁貸出の手続改善 ・ 県各部局への周知	県庁貸出冊数【120冊】	県行政を支える取組として県各部局や職員への情報提供によるサポート体制の充実を目指し、申込方法の簡素化などの運用改善を図った。 県職員専用ポータルサイトを活用してサービスの周知を実施した。 この他にも、通常業務で他部局と情報交換を行った際に県庁貸出サービスを紹介し、その後、活用につながった事例があった。	185冊	達成率154％ 評価（5） 100％以上	県職員専用ポータルサイトでの呼びかけにとどまらず、日常業務で交流した折など、様々な機会をとらえて県各部局へPRを行ったことにより、認知度の向上につながっている。	A	県各部局への図書館の有用性のアピールにもなり、目標も達成しており評価できる。引き続き、認知度の向上・貸出利用につながるよう施策を継続していただきたい。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用	新潟県関係資料の積極的収集	・出版情報の多角的な把握 ・積極的収集と展示 ・書庫等の保存環境の整備 ・デジタル化も見すえた行政資料の収集・展示の改善		新聞や機関誌などのチェックにより郷土資料の出版情報を多角的に収集した。 行政資料の収集については欠号状況・出版状況のチェックを行い、寄贈依頼・受入れを進めた。 今までデータベース化に至っていなかった過去の行政資料やパンフレット類についても、データ作成・製本・受入に取り組んだ。 書庫内でのカビ除去作業も適宜進めており、書庫入口の粘着マット設置などによるカビ防止策も継続して行っている。			行政資料については、概ね順調に寄贈依頼・受入れを進めることができた。 今年度は大口の寄贈申込みがあり、公用車で受取りに行って貴重な資料の受入れを行うことができた。 HPでの郷土資料寄贈の呼びかけを更に工夫して積極的な収集に努めていきたい。		新潟県関係の郷土資料について、収集したものをどのように活用したか、あるいはしていくのかということも記載してほしい。 小・中学校では、郷土の偉人について学習する機会を設定している学校が多いので、市町村の図書館とこれまで以上に連携し、情報共有及びPR活動を展開しても良いと考える。
	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	・デジタル資料の追加 ・利用環境の整備 ・利用者へのPR	デジタル化画像数【1,000点】	予定通り4機関に参加いただき無事撮影を行った。 令和5年3月までにデジタルライブラリに追加・公開する予定である。	2,659点	達成率266% 評価（5） 100%以上	当初の年間スケジュールどおり作業を進めることができた。 撮影した資料点数は56となり、合計で2,650画像となった。	A	コンテンツ数は順調に伸びているが、一方でアクセス件数は目標値に届かなかった。利用者のアクションが無いと伸びない項目なので、図書館側がコントロールできずに難しい部分もあるが、引き続き、現状のPR施策（HP上のギャラリー更新や現物の展示）を続けていくことが重要であると考ええる。
			アクセス件数【12,000件】	ホームページ上で「新潟県の歴史と文化を旅するギャラリー」を2ヶ月ごとに更新して、ツイッターでもPRに努めた。 併設の文書館主催の講座と連携して、デジタル化した資料の現物を閲覧室内でも展示するなど利用者へのPRを行った。	10,907件	達成率91% 評価（4） 90～100%	ギャラリーの更新を定期的実施し、SNSでのPRも行ったが目標達成には至らなかった。 3月の新規データ公開に合わせ、さらにPRを行っていきたい。	B	アクセス件数については、どのようなものが所蔵されているかを知らせていく工夫などをして評価の向上に努めてほしい。 とりわけ、デジタル化画像数及びデータベース収録数の達成率を素晴らしく感じる。今後も更なる伸びを期待する。 「越後佐渡デジタルライブラリー」は点数も増え、利用も楽しみである。 小・中学校では、郷土の偉人について学習する機会を設定している学校が多いので、市町村の図書館とこれまで以上に連携し、情報共有及びPR活動を展開しても良いと考える。（再掲）
	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	・データの登録 ・利用者へのPR	データベース収録数【2,500件】	郷土人物索引、郷土雑誌記事索引のいずれも予定していた採録対象資料のデータ登録を終了した。	4,432件	達成率177% 評価（5） 100%以上	目標を超える4,248件の登録を行うことができた。 今後も登録作業を進め、データベースの充実に努めていきたい。	A	収録数は順調に伸びているが、アクセス数が目標に届いていない。主な取り組みで挙げられた河井継之助のパスファインダーのように、PRしやすいコンテンツの充実が求められる。富山県立図書館のふるさと人物データベースでは、100人名が挙げられて、そこから選択する方式がとられており、わかりやすいインターフェイスとなっている。こうしたコンテンツなどの導入検討も今後は必要だと考える。
			アクセス件数【5,300件】	郷土人物について調べる際のデータベースの使い方を案内するページを作成してPRしていく。 3月上旬に「人物ピックアップ！河井継之助」を公開する予定である。	4,442件	達成率84% 評価（3） 80～90%	昨年度よりはアクセス数が増加したが、目標値を下回った。 ホームページのリニューアルに併せて更なるPRを行っていきたい。	C	アクセス件数については、どのようなものが所蔵されているかを知らせていく工夫などをして評価の向上に努めてほしい。（再掲） とりわけ、デジタル化画像数及びデータベース収録数の達成率を素晴らしく感じる。今後も更なる伸びを期待する。（再掲） 小・中学校では、郷土の偉人について学習する機会を設定している学校が多いので、市町村の図書館とこれまで以上に連携し、情報共有及びPR活動を展開しても良いと考える。（再掲）